
平成 30 年度 交通に関する佐々並地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 14：00～15：30

場 所：旭活性化センター

事務局：萩市、旭総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 63 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：P18 の自家用有償旅客運送とは、どういったものか。

事務局：本来、客を乗せて対価をもらうのは、道路運送法に基づく、認可をもらった交通事業者のみ可能である。一方で、過疎地域では事業者だけでは運営が成り立たないので、自家用車を使って有償運送をできる仕組みがある。自家用車を使って、有償で運送が可能となるよう運輸局に登録する制度。現在は制度が緩和されており、NPO、自治会、任意団体等が、登録を受けた上で、一種運転免許で輸送ができる制度である。交通空白地域における特別な措置である。公共交通を確保するために様々な施策を行っているが、追いつかない状況があり、利用者は減少する傾向である。一方で将来的には 8 割の方が公共交通を使う意向はある。これらを踏まえて、広域幹線を維持しながら、ぐるっとバスの運行の在り方や福祉施策の在り方、また住民間の助け合い等、様々な移動手段を含めて、地域の足を確保したい。

参加者：具体的には、どのような形になるのか、団体は必要か、もしくは個人でもできるものなのか。

事務局：個人ではできず、団体として登録する必要がある。安全性の確保が課題だと思われる。登録を有しない運送は、対価をもらうことはできない。例えばAがBを送迎する際に、決められた金額を受け取ることが出来ない。ただし、相互扶助、いわゆる謝礼の範囲で、自発的にお礼をするのは、誰が運転しても問題はない。一方で、自家用有償旅客運送は、自家用車を使って輸送してお金を受け取れる仕組みである。

参加者：例えば10kmで1000円といった設定でも届け出が必要なのか。

事務局：あらかじめ料金を設定する場合は、自家用有償旅客運送に該当するので、登録する必要がある。

参加者：そういう体制を作るとした場合、市として対応する構想はないのか。

事務局：自家用有償旅客運送登録制度を利用して、自治会で実施するのも一つの方法と考えている。住民の支えあい等の福祉の視点も踏まえ、あらゆる手段を含めて検討したい。なお登録しないで、誰でも運送できるのは、あくまで、輸送に対する料金が決まっていない場合のみである。ガソリン代の実費をもらう事も可能。一方で、対価をもらう場合は、安全性の確保、お互いの信頼の確保のため、運輸局の登録は必要。公共交通は安全性第一となる。

参加者：ぐるっとバスだが、舞谷方面はコースが右回り、左回りのみで、ルートによっては遠くなるので、使いづらく、乗客が少ない。(幹線の)バス停が近い方に出してくれるようなルートがあるとよい。

また山口市は、1回100円で高齢者が自由にバスに乗れる制度を実施している。そのような形で、地域内を走るバスは、どこまで行っても100円で行けるようなバスがあるとよい。現在、佐々並の商店街は全部なくなった。役場も農協も郵便局も合併してなくなった。全ての公共交通機関がなくなった。今は、萩のアトラスあたりに出るしかない。長小野方面の人は湯田へ行く人もいる。また山口市に行く学生も多い。また2次、3次救急は山口市の方がそろっている。通勤で山口市に行く人も多い。そういった面も含めて、旧町村の中にいる人間をどうにか助けるかを検討してほしい。

事務局：公共交通の届かない交通空白地域には、ぐるっとバスの運行体系を定時定路線もしくはデマンド化とするか、あるいは自家用有償旅客運送とするか、住民のニーズと利便性を踏まえて、今後、見直しを検討する。現状の構想案の図は、地域間を大きくつなぐ幹線と、地区内を結ぶぐるっとバスや地域コミュニティ交通などの支線で、全エリアをカバーできるように記載している。住民のニーズに応じた公共交通をつくる必要がある。

また山口市の100円だが、福祉施策で実施している。佐々並の方からみると、かなりの運賃格差がある。料金は、周辺部では割高になっており、福祉施策と連携しながら利用者負担の在り方を検討する。

佐々並は山口市が経済圏であることは承知している。地域によって移動したいところが異なる。最終的に目的地に行けるような仕組みを検討したい。地域の実情に合わせた検討を進めたい。

参加者：料金が足りない部分は税金で賄うことも検討していただきたい。

事務局：幹線は維持する必要があるので、市が赤字を補填してでも維持していく。地域の住民の生活に合った運行体系に見直す。

参加者：現在、路線バスが東萩駅まで行かず、明倫センター停まりになっている。理由は、市がバス事業者への負担金を出さなかったためと聞いている。

また山口市は、70歳の方は100円でどこまでも行ける。萩市は一切しない。萩市に買い物に行く事はない。医療機関も山口市に行く。バスも400円ぐらい料金が異な

るため、自然と山口市に行ってしまう。

事務局：萩市でも、路線維持のために相当の補助金額を負担している。移手段の確保のためであり、防長交通も中国 JR バスも黒字路線はない。国県市で負担しながら維持をしている。

中国 JR バスは、H28 年 10 月から、新山口駅行きのもので、東萩駅停まりだったものを、明倫センター停まりに変更した経緯がある。その後、色々な利用者からの苦情があったため、H29 年 10 月から戻した経緯がある。現在は東萩駅まで停まるようになっている。

参加者：本庁に行くことが多いが、「17 時に再来庁するように」と言われたことがある。この場合、帰りのバスがなくなるので、ぐるっとバスが、月 1 回でも 2 回でも、本庁に行くようにできないか。

事務局：現状、家から目的地まで行くのが利用者のニーズであるが、現状の交通体系は、第一は、公共交通事業者が担い、その運行外の範囲をぐるっとバスが運行することになる。ぐるっとバスが萩に運行すると、路線バスと重複して、路線バスの利用者がなくなる恐れもある。交通空白地域をぐるっとバスが担う役割であり、ぐるっとバス自体が萩に行くのは難しい状況である。

参加者：幹線路線だが、交通事業者は民間企業であることから採算が合わない場合、撤退することも考えられるのか。赤字になった場合、究極は廃線になるのではないか。純然たる公共交通ではない。民間が実施している路線である。民間企業は利益を追求する。それに対し、補助金を出しているが、採算性、費用を自前でコントロールできる交通体系を考えられることができないか。また昨年、アンケート等の活動をしているが、これらの対応をもう少し早く実施して頂きたい。事業実施するのに、3 月に予算が決まる。実施は、来年のことだが、早く、長く、住民の意見を吸い上げてほしい。市長は市民ファーストとのことなので、きめ細かい対応をお願いしたい。

事務局：公共交通は、市としても確保が必要なので、かなりの補助金を出して維持をしている。今後も幹線は維持したい。

また、今回の公共交通の見直しのため、アンケート調査や乗り込み調査など、様々な調査を実施したが、ある程度の方向性、話ができる段階まで整理できている。計画を作っていく前に、ご意見を頂きたい。どのような意見でも指摘もいただいて、検討を進めたい。いずれにせよ、皆様のご意見を踏まえて、公共交通を検討したい。計画は 12 月に策定予定だが、例えばぐるっとバスの充実など、できることは前倒しで検討する。ただ、大きな仕組みの変更は、計画の中で検討して、H32 年度の予算で検討したい。

参加者：ぐるっとバスは市の事業で実施しているが、そういった自前の事業を、民間の事業者に頼らなくてもできないか、あるいは民間事業者に頼るのか、考えをお聞かせ頂きたい。

事務局：佐々並のぐるっとバスについては、市の職員が運行している。運営主体の考え方も検討したい。事業者に丸投げではうまくいかないと思う。

参加者：自家用有償旅客運送については、運転者の資格が必要とのことだが、そのような人材を置いてくれるのか、あるいは資格取得のための勉強をさせていただけるのかお聞かせいただきたい。また明木には車両（日産セレナ）があり、使い勝手がよいが、佐々並には車両がない。

事務局：自家用有償旅客運送は自治会でも運行でき、また、第 1 種普通免許でも、運輸局が指定する講習を受講すると、実施可能になる。明木のセレナは、生活支援の視点で、介護保険制度総合事業の住民支えあいの一環で、旭地域に配置されている。利用はお互いにして頂きたい。総合事務所に各 1 台配置している。住民の支えあいによる移手段の確保として、各地域に配置している。

-
- 参加者：自家用有償運送による運転手ボランティアは、地元の活動でするしかなく、高齢者で対応するしかないと思われるが、年齢制限はないのか。
- 事務局：年齢制限はない。担い手確保が一番の課題なので、自家用有償運送で賄えるといっても、仕組みができないと、交通体系として確立できない。これらも交通手段の一つとしてその他の方法と融合させて検討したい。
- 参加者：セレナだが、明木から借りて返すのに二度手間となるので、佐々並にも配置を検討していただきたい。
- 事務局：地域の要望として福祉に伝える。
- 参加者：ぐるっとバス、スクールバスは、土日祝日は休みであるが、休日も検討して頂きたい。休日に風邪を引いた場合、自分の車で行くようにしている。また、買い物も土日祝日が多い。そのあたりの確保をお願いしたい。
- 事務局：ぐるっとバスは、土日祝日は運行していない。主な目的は通院・買い物、特に通院の観点で平日のみである。ご指摘については、様々な交通体系を踏まえた上で検討する。
- 参加者：萩市の財政負担が増加傾向にあるとのことだが、P10を見ると、佐々並地区の住民は中国 JR バスを利用しており、市の負担額は僅かである。佐々並地区としては侵害である。須佐田万川では、市の財政負担が増加しているとのことだが、佐々並地区は、決して市の負担の補助が多いという状況ではないことを確認頂きたい。また山口市においては 100 円バスの運行で、年間 1 億 5 千万円、一日当たり 400 万円の負担となっている。山口は人口 20 万人、萩市は人口 5 万人で、規模 4 倍の差がある。行政機関が交渉して、萩市は 4 分の 1 の負担で抑えるなど、交渉して頂きたい。この 100 円バスを利用して、佐々並の道の駅にこられる山口の人も多くみられる。かなりの交流も起きるのではと思われる。基幹的なバス路線として残しながら、山口市と早めに相談して頂きたい。
- 事務局：中国 JR バスは利用が多く、運賃収入で 5 割以上あるが、萩市全体の路線を考えると、財政負担は多い。路線ごとに、効果的な運行が出来るように、検討したい。また、周辺部は利用者負担が多いことは認識している。見直しに当たっては、萩市全体の利用者負担も考えていきたい。
- 参加者：停留所では、トイレや屋根がないことが問題となっている。道の駅あさひであればトイレ、駐車場もある。防府方面では、ゆめタウンまでバスが入っている例もある。佐々並のバス停は、トイレもないし、よく遅れるのため待つのが大変。道の駅にはトイレを含めて全てがある。
- 事務局：佐々並のバス停は、乗降が多いのに環境が良くない。道の駅での接続で、事業者やぐるっとバスも道の駅に接続できれば、利便性も高まると考えている。道の駅あさひへの路線バスの乗入れは、かねてより要望を頂いている。JR バスと県と現場立ち合いで協議している状況である。
- 参加者：道の駅では観光バスがよく停車しており、30 人ほどの乗客が乗り入れしている状況もある。このような状況で、路線バスが止まると敷地が狭くなる。バス停として利用するなら、もう少し駐車場を広く確保する必要がある。駐車場を今の広さ以上に、土地を広げるよう、造成して頂きたい。
- 事務局：道の駅の機能維持をできるように、路線バスを停車できないか、事業者と県と協議しながら進めている。大型バスが止められないと、道の駅の機能がないので、検討していきたい。
- 参加者：道の駅だが、足の不自由な人でも利用しやすいよう、早急に対策をお願いしたい。歩道を広くして、駐車場で邪魔にならないように早くして頂きたい。また JR バスの乗降も年寄りには難しい。対応いただきたい。セレナの件では、明木は佐々並から距離が遠く、借りに行ったり、戻したりするこ
-

とが不便で、あまり利用できない。検討していただきたい。

また、診療所へ行くのに、車を利用する必要がある。佐々並は山口市が経済圏であり、バスで高齢者夫婦でいくとなると2人分の料金が必要となる。使いやすい車を配置するか、あるいは料金的な支援をお願いしたい。

透析患者では、週3回病院に行く必要がある人もいる。そのような人の対応をどうするか、そのあたりの検討もお願いしたい。自家用有償旅客運送について、許可、登録するにしても、市として率先して対応して頂きたい。サロンを実施する際、60人もの参加者がいる。これらの人たちが外出して話をできるような対策をしていただきたい。

高齢者の免許証返納対策については何かあるか。これらの対策も検討していただきたい。人口が減り、高齢者が多い。生活に困っており、意見交換しただけではだめなので、実行して頂きたい。

事務局：バスに乗る際の補助は、介護の資格が必要である。但し、車両のステップを低くすることは、バス事業者に対応を依頼する。透析患者の関係は福祉と協議ながら検討したい。山口の料金格差については、福祉施策、利用促進策も含めて、検討したい。今回の方向性の案にも記載しているところである。

参加者：観光バスの乗降は高齢者には不便である。ステップを設けるなど、高齢者の対策としてできないか。

事務局：ステップ、手すりの設置など、手法はあるので、バス事業者に伝える。

参加者：住民主体の交通に関する有償ボランティアだが、こういうことができる機関が萩市にはあるのか、あるいはこれから作るのか。

事務局：商工振興課に連絡いただければ対応する。

参加者：佐々並地区で、デマンド便の内容、窓口をご存知の方、どの程度いらっしゃいますか。

参加者：参加者のほとんどから挙手なし（デマンド便の認知がほとんどされていない）

参加者：デマンド便自体が浸透していない、周知されていないのが現状である。例えば「電話一本送迎便」など、分かりやすい名前にはどうか。

事務局：ほとんどの方がデマンド便を認識していない現状であり、市としても周知の取り組みを進めるが、例えば須佐では、民生委員の方が寸劇方式で、デマンド運行を周知する取り組みを実施している。また実際に予約や利用の仕方を体験するような取り組みが必要である。ちなみにデマンド便とは、総合事務所に電話して、何時に迎えに来てもらうか伝える。その後、ぐるっとバスが来て、買い物、診療所へ送るシステムであり、帰りも送迎してくれるシステム。電話で予約して使える仕組みである。知っている人はずっと使っている。デマンド便を知らない新規者が増えないのが課題であると考えている。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上